

1 はじめに

- 社会情勢の変化や利用者ニーズの多様化など、有料道路を取り巻く環境が大きく変化する中、有料道路が将来にわたって持続的にその役割を果たしていくための適正な管理・運営が求められている。
- 栃木県内の2つの有料道路の今後の管理・運営のあり方について、令和5年度から2か年にわたる議論の内容を踏まえ、以下に提言を示す。

2 日光宇都宮道路（日光道）について

- 高規格道路としての位置付けや交通特性を踏まえると、今後とも 定時性や走行性の確保等、一般道より高いサービス水準を維持するとともに、大規模リニューアル事業（耐震化・老朽化対策）の着実な実施により安全性を確保することが必要
- 維持管理や事業に必要となる財源については、利用者負担を前提としつつ、将来の交通量や収支の予測に基づき、料金改定及び料金徴収期間延伸により確保すべき。
- 料金改定及び料金徴収期間延伸にあたっては、広く情報公開し理解を得ていくことも重要
- 今後、将来の物価変動等の社会情勢の変化や多様化する利用者ニーズ等へ適切に対応するとともに、渋滞対策等に資する変動料金など柔軟な運用についても検討することが望ましい。

3 宇都宮鹿沼道路（さつきロード）について

- 交通量の実績が計画の3割未満にとどまるなど、料金抵抗により機能が十分に発揮されていない状況であることから、交通量を増やす策を講じ、整備効果を十分に発現させることが必要
- 無料化により、交通量が増加するとともに、利用者の時間短縮効果や迂回車の減少による周辺地域の安全性向上、沿線への産業誘致による経済活性化等の効果が期待されることから、予定どおり無料化すべき。

4 結びに

- 以上を踏まえ、県において国との協議を進めた上で、速やかに事業方針を決定するよう提言する。